

第 22 号

発行 2022 年 11 月 11 日

編集代表 西本 孝

NOI 岡山通信

日本自然保護協会

岡山県自然観察指導員連

絡会 (NOI : Nature

Observation Instructor)

ごあいさつ

代表世話役 西本 孝

新型コロナウイルスによる行動制限もなくなり、少しずつ活動を再開しています。中国地方5県交流会も、2年にわたる延期にもめげず開催にこぎつけていただいた広島県の皆さまのおかげで盛会に開催されました。これからも交流会が継続できる目処が立ったようです。

活動の報告、今後の活動についてもお知らせします。それぞれ興味ある活動に参加してください。さらに、会員がそれぞれの地元で活動していただき、独自の観察会の企画運営、自然保護活動を実施して下さるようお願いいたします。

活動報告

これまでに実施した活動ー2022年総会後に実施したもの

- 中国地方5県交流会と第22回自然観察会
開催日：9月24日(土)～25日(日) 場所：北広島町八幡高原(広島県)
内容については、勝部和弘さんが報告
- 第23回自然観察会ー白賀溪谷の自然「岡山県の生物多様性のホットスポットを訪ねて(3)」
開催日：10月29日(土) 場所：鏡野町白賀溪谷
内容については、池田和子さん、齊藤由紀子さん、齊藤雅子さんが報告
- 協力行事)自然観察会ーどんぐり
開催日：11月6日(日) 場所：岡山市こどもの森
内容については、福元隆三さんが報告

今後の活動予定

○主催行事

忘年会と勉強会(有志)

西本 孝

- 日時：年12月11日(日)13～19時 話題提供と意見交換、15～19時ー忘年会
- 集合：e-Tam 自然と教育研究所 ●連絡先：
- 内容：勉強会13～15時ー石川さんからの 西本 孝：taknishi@js4.so-net.ne.jp

新年会

石川和人

- 日時：2023年2月4日(土) ●連絡先：
- 場所：飲み屋で実施する予定ですが、感染状況によって最終決定します。 石川和人：fc233487@wd6.so-net.ne.jp
参加希望者には、詳細をお知らせします。

第24回自然観察会ー早秋の毛無山の植物

西本 孝

- 日時：2023年4月29日(土・祝) 物を観察し、山菜料理の昼食弁当を楽しむ。
- 場所：毛無山(新庄村) ●連絡先：
- 特徴：早春のブナ林の林床で開花する春植 西本 孝：taknishi@js4.so-net.ne.jp

○協力行事ー会員が主催する行事に、他のメンバーが協力する行事

自然観察会ー玉野市みやま公園

藤原淳子

- 行事：セトウチサンショウウオの観察と保護活動 ●集合場所：公園の自由広場イベントハウス
- 日時：3月12日(日)10～12時 ●公園内用水路とその周辺で生きものを観察
- 連絡先：藤原淳子 mutica7o@outlook.jp

9月24～25日の二日間にわたり、広島県連絡会の皆様にお世話になり、西中国山地(北広島町・安芸太田町等)で実践されている生物多様性保全と地域課題解決の取り組みを拝見させていただきました。過去2年にわたり中止が続いたこともあり、各県参加者は7～8名、岡山は私を含め参加者3名、各県の取り組みの報告も岡山県は私の心許ない報告となり、伝えきれず申し訳なかったです。

初日は古民家「山麓庵」での受付と2日間の説明を受けてから私の参加理由でもあった八幡湿原へ広島代表の和田氏の解説で見学(写真右上)、八幡湿原とは北広島町八幡原地区にある数カ所の湿原の総称だそうで、今回は霧ヶ谷湿原を歩く。この湿原は臥竜山(1223m)から湧き出る水が流れ込む太田川水系の源流部、標高800m程度の盆地。昭和40年代以降に行われた牧場化事業で小さな川は三面改修され急速に乾燥化が進み、ノイバラや背の低い樹木のやぶに変わっていた霧ヶ谷湿原は2003年1月1日に施行された「自然再生推進法」をきっかけに環境省、県、旧芸北町、NPO、他、団体や民間人の力を結集した「八幡湿原再生協議会」を(2004年10月)発足させ、牧場造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系の再生を目指す大々的な活動を現在も継続中でした。



地元の心ある数少ない人たちが古くから有った湿原を何とか守って居られるのだらうと思っていたが、思い描いた湿原のイメージとは全く違い、湿原そのものの成り立ちを一から考えさせられる場所でした。印象に残ったのは真っ赤な実を一面につけたカンボク(写真右中)の多さとビッチユウフウロ、そしてハンノキ林が湿原やその周辺を形成する景観のひとつなんだということでした。そして一度失ったものを取り戻すのは並大抵の熱意と努力を持ってしても膨大な時間と労力が必要だと、活動が始まって18年目に見学させてもらって強く感じました。



宿泊は山一面を山焼き保全をされている深入山(しんにゅうざん)麓の「いこいの村ひろしま」(安芸太田町)、早朝より講師の上野氏(NPO法人西中国山地自然史研究会会長)の案内で宿周辺のミニ野鳥観察のあとは、この地域のもう一つの主要な活動である地域課題解決の諸活動を「西中国山地自然史研究会」が中心となり、里山の木を住民から買い上げ、ほだ木や薪として販売する、木の活用・再生事業である「芸北せどやま再生事業」、草原の維持管理と景観を保つための「芸北茅プロジェクト」等、地域通貨を取り入れ学校や地域を巻き込んだ活動をされており、その一つで住民が刈った茅を買い取る茅金市場の集積場(廃校になった学校の体育館)の見学をする。私の住む県北の新庄村と似通った環境にあり、同じような地域課題も抱えながら何歩も先を歩む大先輩の地域でした。最後はこれも多くの人の力を結集し山焼きが復活した雲月山(911m)、登山入り口の駐車場付近でアキノタムラソウを観てから登り始め、花を見つける度に和田さんの解説を聞き、一息つきながらゆっくりと急斜面を登る(写真右下)。センブリが花を咲かせ、ホクチアザミが花をつけ、残念ながらムラサキセンブリは目をこらして探すもどれも蕾でした。峰まで登って見渡す景色は一面草原の雲月山を囲む周囲の山々は1000m前後の易しい山容のまさに中国山地そのものでした。



最後はこれも多くの人の力を結集し山焼きが復活した雲月山(911m)、登山入り口の駐車場付近でアキノタムラソウを観てから登り始め、花を見つける度に和田さんの解説を聞き、一息つきながらゆっくりと急斜面を登る(写真右下)。センブリが花を咲かせ、ホクチアザミが花をつけ、残念ながらムラサキセンブリは目をこらして探すもどれも蕾でした。峰まで登って見渡す景色は一面草原の雲月山を囲む周囲の山々は1000m前後の易しい山容のまさに中国山地そのものでした。

私たちは、予報は晴れになっていたが、雲いきの怪しい旧富村の富振興センター駐車場に集合した。そこからは風力発電の風車が25基も建設されるかもしれないという乗幸山の一带が見えた。今日はその麓白賀溪谷でNOI主催の観察会が行われた。その入り口まで15分ほどであった。途中話に夢中になり、一瞬の内に先行車を見失い、不安な数分間を過ごしたなんて言ったらうそのようだが。最初に、現在行われている風力発電計画の現地調査の様子を聞くところから始まった(写真1)。

観察会が始まって一番に目に入ってきたのは見覚えのある葉っぱ。波打つようなやさしい輪郭。ただ見覚えのあるものに比べ多少スリムで長いような。株立ちで黒っぽい幹、全く違う。生えているのは川のそばの水気の多い場所(写真2)。とても大きく空に向かって立ちはだかっている・・・イヌブナ、以前見たことが確かにあるはずなのに名前しか覚えていなかった。

白賀溪谷は新庄川と違って水量が多く、大きな岩がゴロゴロして、深い谷になっている。山頂から急激に下るためにこのような谷になるのだろうか？まさに溪谷。所々に流れの緩む所があり、岩をめくって生き物を探す(写真3)。いろいろな種類のサンショウウオ、ナガレタゴカエル(希少種)、私も少し探してみた。ドジョウのような生き物が一瞬飛び跳ねたが、確認する間もなく姿を消してしまった。結局水辺で確認できたのはサワガニ一匹だった。

紅葉にはもう少しだけ早かったようだ。一番美しかったのは、シラキ。葉の表面がツヤツヤ光って美しい紅に変わりつつあった。クロモジの仲間はいい香りがする。一番は「クロモジ」。ウスゲクロモジは妙な匂いだった(写真4)。ダンコウバイもクロモジのような匂い。クロモジの仲間だったなんて知らなかった。

カエデの仲間は葉っぱ二枚がペアで葉柄の根元でくっついていて、コハウチワカエデ、ハウチワカエデ、細かい鋸歯のオオモミジ、重鋸歯のイロハモミジ。さらに、これは何？と言われ葉っぱ二枚のペアからカエデだとわかったが、葉先が三つに分かれている。「ミツデカエデ」だった。新庄村でも聞いていた名前だが、さて？ 思い出した。あの場所に確かにあった。観察不足がわかる。

チャボガヤ、ハイイヌガヤ。どちらも多雪地域に見られる？ようだが、さわってみると違いは一目瞭然。イワガラミとツルアジサイ。花での識別しかできなかったのも、咲く時期でしか判断がつかなかったが、並んでいると葉の違いがよくわかる。ツタウルシ。危険な植物だが、かぶれない人もいるとか(写真5)。



写真1. 溪谷の案内看板の前で。



写真2. イヌブナの大木の観察。



写真3. 流れのそばで岩をめくる。



写真4. ウスゲクロモジ。



写真5. 岩にはイワガラミやツタウルシが張り付いていた。

コナラ、ミズナラ。葉の大きさや葉柄の長さで見比べると、違いが納得。

ゆっくりと観察しながら歩くことができた。日陰ではとても寒かったが、お弁当は日差しのある場所で、暖かさが感じられて、楽しくおしゃべりしながら食べることができた（写真6）。

オオキンケイギク、オオハンゴンソウなどの特定外来種の話になり、駆除するための一歩を踏み出さなくてはという大きな宿題をもらってしまった。

ほぼ新庄村から出て観察会に行くことがないのだが、外も知ってみると内のことが違う目で見えるのかもと思った。

なお、この地域で開発が予定されている風力発電計画については、日本自然保護協会からは理事長名で以下のような意見書が出されています。



写真6. 観察会を終えて、14時過ぎからの昼食。日だまりの暖かさを感じながら会話を楽しんだ。

岡山県北部で大規模な風力発電が計画されています。事業計画地は、岡山県内で自然度が最も高いエリアであり、生物多様性の喪失などの自然環境面での多大な影響が予測されることから、配慮書段階で中止することを求める意見を提出しました。

東京都中央区新川1-16-10 ミトヨビル2F 公益財団法人 日本自然保護協会 理事長 亀山 章

参加者9名：西本・橋本・山根・福本・藤本・勝部・斎藤雅・斎藤由・池田

活動報告—協力行事

自然観察会—岡山市こどもの森 どんぐり観察会

福元隆三

11月6日（日）に快晴の空のもと、主催の岡山プレーパーク（NPO 法人岡山こどもセンター）の担当者2名、NOI岡山からは、4名が講師役として観察会の指導をしました。

参加者は、親子連れ40人（こども22人、大人18人）でした。

恵まれた天候の中で、1時間30分ほど園内をゆっくりと歩き、11種類のどんぐりをつける木を観察しました（写真1）。木の特徴や拾ったどんぐりの特徴などの話で盛り上がりました。どんぐりは8種類を拾って、違いを見比べることができました。子どもたちは、どんぐり拾いに夢中で、もらった袋に一杯入れて、穴を空けて、道にばらまいた子どももいました。でも、それに気づいた他の子どもたちが協力して拾って返してあげました。大人たちは、どんぐりのお話の耳を傾けて、その奥深さに聞き入っていました。



写真1. 福元さんが説明しているそばで、子どもたちはどんぐりを熱心に拾っていた。

観察後、どんぐりのコマづくりやペイントによるクラフトをしました。中には、コマをどちらが長く回せるのかを机の上で競う子どもたちもいました（写真2）。食べられるマテバシイやスダジイを試食する体験もしました。どんぐりは事前に煎ったものとその場で七輪の炭で煎ったものを食べ比べました（写真3）。希望者には調理法をお知らせして、手のひら一杯のどんぐりを持ち帰ってもらいました。



写真2. 子どもたちは、どんぐりコマで、回転数を競い合った。



写真3. スダジイのどんぐりを七輪で煎って食べた。

どんぐりを通して、参加者には自然への親しみや関心を高めてもらえた観察会となりました。次回は、3月に春の生きものを観察する予定です。